



糸南小学校 学校だより

1月号
平成30年1月9日
校長 祭谷 桂二



諦めない気持ち

新年おめでとうございます。今年は暦の関係で9日が3学期のスタートとなります。冬休みはどうだったでしょうか。楽しい思い出もできたのではないのでしょうか。

さて、4日の朝は雪が積もっていました。以前は11月末から12月の始め頃に一度少し積もる程度の雪が降り、その後は1月の3学期が始まる頃に本格的な雪が降るというイメージでした。それが早々と4日に10cm位も降り積もっていたので驚きました。1月から2月にかけて一番多く雪が降ります。登下校等では、雪道の安全に注意して、元気に生活してほしいと思います。

年始めの1月2日と3日に箱根駅伝があります。毎年1月の学校だよりに書いていますが、本校出身の市谷龍太郎さんは、平成27年と28年の大会に2年連続で山梨学院大学の選手として出場しています。大学3年の昨年は往路の7区にエントリーされていましたが、インフルエンザのためメンバーの交代があり勇姿を見ることはできませんでした。そして、大学最後の年である今年は残念ながらエントリーされていませんでした。しかし、各大学の選手が放送された中に元気な彼の姿を見ることができました。

参加チームの中には、エントリーされていても当日メンバーの入れ替えで走ることができない選手もいます。その選手はどんな気持ちだろうと思ってしまいます。「どうして代えられる?」「自分の方が速く走れるのに」だろうか。もしかしたら「今日は体調が良くないから交代を申し出よう」だったかもしれない。チームが勝つためには自分が出ない方がよいという選択をしたかもしれないという思いも浮かんでいます。監督はどんな思いで選手交代を決定し告げているのでしょうか。出場するからには勝つことが目標になります。「10位までに入り来年のシード校になる」「5位以内に入る」東洋大学や青山学院大学のように「優勝をする」、中でも青山学院大学は「4連覇する」という目標をもっています。エントリーしたときにはベストの選択であったと思うオーダーでも、当日の朝にいろいろなアクシデント等で変えざるを得ないこともでてくるでしょう。中には4年になって初めてエントリーされた選手もいたと思います。もしその選手よりも他の選手の調子が良くなった場合に、交代を告げなくてはならない監督や告げられる選手の心情はどんなものなのでしょうか。

テレビで「陸王」という陸上長距離選手とシューズメーカーのドラマがありました。池井戸潤さんの原作で以前に読んでいたので内容は知っていましたが、毎回楽しみにして見ていました。故障しても走ることを諦めず努力し続けるランナーと経営難にさらされ、試行錯誤しながらシューズを作り続ける会社のドラマです。

選手にとって試合に出られないこともあるでしょうが、そこでどのように考えるかがその人の今後の想像できます。「今回は活躍できなかったが次がある」「社会人の大会で走る」等、ポジティブに考える人。「今までさんざん練習をさせてきて選手を交代させるなんて監督は何を考えている」と人のせいになしたり「もう終わりだ、やめた」とネガティブになったりする人。

辛いと思いますが気持ちを切り替えて、決して腐らず、諦めず、次に目標を定めて努力し続ける。陸王に出ていた茂木選手のような姿を、子どもたちに学んでほしいと思っています。